

みんなの家主催『嗚呼 満蒙開拓団』上映後の感想

- ・ 真実です。
- ・ 歴史の一断面が正しく記録された映画だと思いました。
- ・ ドキュメンタリー映画、事実ですね。戦後 65 年、まだ終わっていないと思いました。
- ・ 国の責任なのか、政府の責任なのか、映画の中での肉声は本物だと思います。厳しい生活を強いられた戦後の日々は、本当に考えられないご苦労だったと思います。
- ・ 方正の場所とそこでの出来事を知り、感動しました。歴史を知ることは絶対に必要だと思います。とても良い時間でした。この映画を子供達（中高生）に是非、見せてほしいと強く思いました。
- ・ 多くの犠牲の上にある今の平和を大切にしたい。政権争いばかりでなく、政治家に見せたい映画でした。
- ・ 私達、戦争体験者から見ると、ある一部分と感じました。映画よりもっと酷い、表現ができないような体験を致しました。
- ・ 証言映像集で、こういうのも「映画」というのか疑問でした。俳優が当時のことを演じている映画が良かったです。『妹 ～中国残留孤児を捜して～』とか『脱出 開拓団全滅の記録』という本を読んでも、悲惨さが分かります。
- ・ 「お国のため」のひとつで、こんなにもむごい人生を強いられた方々がいることに、胸がつぶれる思いでした。戦争は絶対にイヤです。平和を大切にするために、私は努力したい。もう、「国家が、云々」などと言う政治家の言葉には騙されません。
- ・ 当時は渡満できぬもどかしさに苛立ったりしましたが、映画を観て、「あー、満州へ渡らなくて良かった」と思いました。渡満していたら、言葉も風習も分からず、生きられるかどうかかも知れないことでしょう。
- ・ 戦争中、小学 1 年生だった私ですが、防空壕に避難した記憶や、サイレンが鳴って学校から逃げ帰った記憶があります。でも、この映画を観て、私が想像する以上の、戦争の恐ろしさ・残酷さを感じました。今、のほほんと日々過ごしている自分達、これで良いのだろうかと思わせられました。
- ・ 国策によって満蒙開拓団に駆り出され、関東軍及び国に捨て置かれてしまった母子、その責任を取ろうともせずに捨て置いてきたこと。中国の人々が幼い命を救ってきたことを知りました。戦争をしてはいけない、軍国主義国家にしてはいけないと思いました。
- ・ 私の実姉家族も終戦直前に満州より帰国したので、本当に心に深く感銘致し、自分自身

が逃げているようでした。この苦しみは誰の責任かをつくづく思います。

- ・ 養父養母のことを思って墓に参るところが印象的です。中国での、一部の人かも知れないけど、考え方が大きい、心が広いと感じられました。日本人の中にも良い仕事をした人がいたことを知って、ホッとしました。
- ・ 終戦間際になってまでも、開拓団を送り込むなど、国家の為すことの理不尽さを思った。沖縄にしろ、開拓団の逃避行にしろ、国によって他人が被った被害の大きさ。
- ・ 皆様の勇気と、ご奮闘に心から感謝しております。
- ・ 私は泣いてしまいました。
- ・ 想像以上の時代でした。次の世代に平和のありがたさを伝えたい。
- ・ だいたいのことは知っておりましたが、詳しいことが分かり、感謝致します。昔(昭和 19 年)、小学校高等科 2 年 (現中学 2 年) の子供達の少年開拓義勇軍への勧めの訓練に、少しですが参加したことで、ずっと心が痛んでおりました。益々、深く感じます。
- ・ 戦争を忘れがちになる日常に、忘れてはいけないと、良い機会でした。
- ・ 過去にこんな悲劇があったことを、初めて知ることができた。
- ・ 昭和 40~45 年、東京で生活をしていた時に、日中友好に関わったことを思い出しながら観ていました。学生時代にこの映画を観ていたら、活動もまた異なっていたのかな…。私の友人 (新潟在住) は、今も日中友好に力を入れています。
- ・ この企画をして下さってありがとうございます。いろいろなことが詰め込まれていて、考えると大変です。中国人とか日本人とかというより、人間愛で行動している人達に感動しました。
- ・ 開拓団の人達には、頭が下がります。今日の映画を観ることができて、本当に良かったと思います。

戦争体験ミニトークの感想

- ・ 戦争は絶対にしてはいけません。皆で平和を守りたい。
- ・ とても悲しい出来事を思い出させて、かわいそうだったが、語らなければ分からないので、話をしてもらって良かった。
- ・ 国策とはいえ、生死を決められ大変でした。戦争は絶対してはならないと思います。御身大切に長生きして下さい。
- ・ まさに生き証人ですね。いくら話しても、話尽くされないことでしょう。ご苦労様でした。

- ・お二人とも、家族にも語れない苦しい心の中の思いを話されたことに、感謝します。
- ・何のための開拓団だったのか。人に話すこともできない体験をされたことに、心が痛みます。戦争とはいったい何なのか。人間が人間でなくなってしまうのでしょうか。
- ・昔のご自分の体験を、多くの人々に、時間の許す限り、語り継いで頂きたいと思います。ありがとうございました。
- ・何とか生きようと思っても、尋常では生きられぬ地獄のような状態から生き延びてこられた方々のお話。悲惨な様子を聞いて、戦争がどんなに残酷なものであるか。今日のお二人のお話は、ほんの一部であって、開拓団にまだまだ多くの方々がおられたことを考えさせられます。
- ・体験を語ろうという気持ちになって下さったことに感謝します。辛い経験を思い出し、伝えなければと考えて下さり、この会が大変有意義になりました。お二人とも、お元気で、良き日々を過ごしてほしいです。「平和を守ろう」という力強い言葉に感動しました。
- ・長い間、語れなかった体験談をありがとうございました。本当に、二度と戦争はしてはいけないと、強く思いました。
- ・お二人のお話、よく理解出来ました。日本は絶対に戦争はしてはいけません。
- ・国から見捨てられ、広い広野を家族と共に帰国をと、一筋に歩かれたご苦勞。察するに涙、胸が詰まります。
- ・菊池良三さんは一般開拓団と思いますが、ご苦勞様でした。浅賀俊之さんはハルピンの渡辺中隊で、何かと街に近い所の訓練所で過ごしたことと思いますが、終戦後、よく元気で帰られたと思います。本当にご苦勞様でした。

満州に住んでいたたり兵隊で行ったりしたお身内の方はいますか

- ・私の主人は13年前に亡くなりましたが、兵隊で満州にいた時の話、特に寒かった話をよくしてくれました。指が凍傷になり、人差し指の爪がだめになっていました。夏は満人のスイカ畑で訓練をし、満人が追いかけてきても日本兵は知らん顔で荒らし回ったとか、かわいそうだったとか。それから昭和20年の暖かくなった頃に、新しい軍服を着せられて、北から南へ行くべく船に乗り、これで最後と思ったそうです。九州を下り、潜水艦がいっぱいで、そこで沖縄戦に向かうことを知らされたとのこと。通信兵でそうこうしているうちに終戦で、持って帰ってきた物は「飯合」「貯金通帳」「靴下」。初年兵は貯金を下せなかったそうで、「俺は国に貸しがある。一銭も国からもらっていない。ただで働

いた。」と言っておりました。戦後の国民年金だけ。今、官僚の人達のことを思うと、主人が生きた若い頃がかわいそうです。

- ・母は単身で大連に行き、外国の商社で働き、昭和23年にトランク一つで帰国しました。何も聞かなかったし、何も語らずに亡くなりましたが、辛かったことが偲ばれて、映画の間中、涙が流れました。
- ・私は最後の義勇軍で、内原訓練所に入所し、東京第37中隊の第一小隊長でした。なかなか渡満できず、広島の西條訓練所にいる時に原爆に遭い、終戦となり、丸麦を塩で炒ったものを軍足に詰め、それをかじりながら、東京へ帰ってきました。
- ・私は義勇隊関東軍体験者です。
- ・私は第四次義勇隊開拓団員でした。終戦時のことを思うと、何ともやるせない気持ちでいっぱいです。
- ・私の義兄は職業軍人らしく実姉と写真見合いをし、満州に行き、子ども3人を連れて無事に帰国しました。満州での生活は、写真を見ると、義兄は軍服とサーベルで威張っており、姉や子供は奥様・坊っちゃんというような感じで、内地の人より恵まれていたようです。
- ・近くにおりますが、あまり話したがりません。
- ・叔母一家、いところが満州から引き揚げましたが、これほど酷いとは思いませんでした。幼児二人を亡くしています。

方正日本人公墓に眠る日本人開拓団や日本兵の人達へのメッセージ

- ・私も間もなく近くに参ります。どうか安らかに眠りください。
- ・安らかに眠り下さい。
- ・平和を心から希望します。
- ・無事、帰国されたご家族様の、今後のお幸せをお祈り致します。
- ・戦争を起こさせてはいけません。日本国憲法を守り、前進発展させたいと思います。
- ・皆様のご苦勞、そして、命を落とされたむごい戦争という事実、亡くなった人々のこと、決して忘れてはならないと、強く感じました。今、のほほんと暮らしている私達は、本当にこれで良いのか。現在の日本という国のあり様を考えると、恥ずかしく申し訳なく思われます。今日の映画をもっと多くの人に観てほしいと感じました。しかし、個人として何をしていったら良いのか…。

- ・満蒙の大地に、夢と希望を抱きながら、家族をも連れていかれ、苦しみの果てに亡くなられた方々に、何と言って良いのか分かりません。せめて、並みの言葉ですが、安らかにどうぞ、としか言えません。
- ・世界平和
- ・平和について考える人が増えていくようにと願います。
- ・長い間、ご苦労さまです。心から感謝御礼申し上げます。
- ・長い間、大変なご苦労だったことでしょう。私達は、なんと幸せなことか。どうか、安らかにお眠り下さい。
- ・歴史に翻弄された人々に、心から手を合わせたいと思います。
- ・今の平和を孫に手渡す努力をします。開拓団で亡くなられた方々の命を、無駄に葬り去るようなことはしません。

NPO法人みんなの家 主催
映画『嗚呼 満蒙開拓団』上映会

鑑賞後のアンケートのまとめ

■平成 22 年 5 月 15 日 松崎町環境改善センター 1 階ホール

参加人数 102 人

■平成 22 年 5 月 16 日 西伊豆町中央公民館 3 階ホール

参加人数 63 人

■NPO法人みんなの家：静岡県賀茂郡西伊豆町中 745-3